

市民ワークショップアンケートの集計結果

- 1 実施日 10月17日（土）
 2 回答数 16名
 3 結果 以下のとおり

回答数	10代	20~30代	40~50代	60代~	計
1	1	5	6	4	16
2 ワークショップに参加した理由は何ですか。(いくつでも)					
ア ワークショップを経験したかったから		3	1	1	5
イ 市の取組みに興味を持ったから	1	2	5	4	12
ウ 市と意見交換したかったから		1	1	1	3
エ その他		1	1		2
(その他)					
・一般的市民の方のご意見を聴きたかったため。					
・職場と別の人間関係のきっかけになればいいと思ったから。					
3 ワークショップの満足度はいかがですか。(1つだけ)					
ア 大変満足		1			1
イ 満足	1	4	5	3	13
ウ やや不満			1	1	2
エ 不満					
(理由)					
・立場の異なる方からの意見を伺い、参考になった。					
・意見、アイデアを可視化するのはとても大事だと思った。					
・なかなか意見をまとめるのは難しいが、色々な意見が出て活発に議論ができたと思う。					
・少人数グループなので、自分の意見がちゃんと話せました。堅苦しくなかったのが良かった。（お菓子の力でしょうか？）					
・ワークショップの中での意見が交換できたと思う。					
・同一グループのワークショップにも興味あり。					
・市民としてのるべき姿と個人としてのギャップを感じた。					
・都合で1回参加できなかった。					
・十分な話ができなかった。					
・皆様とても頑張ってもらい素晴らしいワークショップだったが、「大変」満足とまではいかないものだった。					
・4回参加できることには感謝したい。中身については、不十分な掘り下げにとどまった点がやや残念。					
・それなりに話し合いはできたと思うが、参加人数が毎回減っていくことは残念だった。					
4 ワークショップをさらに良くするために、改善点があれば教えてください。(自由記入)					
・「まちを良くしたい」という市民ボランティア精神に期待したいが、正直謝礼500円では足代にならない。会場をせめて千葉駅近くにしてもらいたら、もっと人も集まつたのではないか？					
・活動、日程の見通しが見えない時がある。					
・話しやすい内容にする。					
・「市民は～します、できます。」というフォーマットに拘る必要はないと思う。「これは、市民にはできない。こんな高いレベルを市役所は市民に求めないでほしい。」という見解も地域参加をはじめ、参加を考える上では重要。					
・多くの市民の参加とのことであれば、日曜日もよいのでは。					
・もう少し時間ががあれば。					
・時間が短い。全く違う意見が出たときに深く議論するには、テーマ別に1時間は欲しい。					

(右上段へ)

	10代	20~30代	40~50代	60代~	計
5 ワークショップに参加したことで身近な地域のまちづくりに対する考え方方が変わりましたか。(1つだけ)					
ア 変わった	1	4	5	3	13
イ 変わらない	1	1	1	1	3
(理由)					
・地域参加を何かしらしてみたいというモチベーションが上がった。					
・地域の課題がよく目につくようになった。					
・地元で今回のワークショップを踏まえて実施すべき点が多くある。					
・主役が自分であるということを再確認した。					
・話し合いをする中で多少の知識もつき、千葉市の課題や市民の可能性を知り、自ら積極的に動こうと思った。					
・地域は作られるということを意識できた。課題は実は今ここにあり、進行していると実感できた。					
・千葉市民としての自覚が出た。まちづくりには、いくつもの意見が必要で話し合うことにより提案できたと思う。					
・色々な人がいるのだと改めて気付いた。					
・共通していること。地域の特色の違い。いろいろと集まつた人数、性別、年齢別で考え方がある。					
・情報に対する関心。					
・市民に関心があることがわかった。					
・各年代に合ったイベントがあるといいのかなと思った。					
・もともと地方自治や住民参加、これからのまちづくりという点には興味、関心があつたため。					
6 今後、この取組みを多くの市民に知ってもらい、多くの市民の意見を聴きたいと考えていますが、どのような方法が良いと思いますか。(自由記入)					
・このワークショップに限らず、人が対面で話し合う機会は良いと思う。					
・別のメンバーでワークショップを行う。					
・地域へ出かけて小さな集まりの意見交換をたくさんしてはどうか。					
・各区でやってみてはどうか。					
・時間と場所を選ばないという点では、アンケート（紙・ネット等）					
・情報公開すること。					
・SNS、市政だより、様々な方法で。					
・情報誌、市HPでのPRが必要か。					
・SNSを使って、わかりやすく見やすく提案したらいいと思う。					
・ツイッターでのアプローチ、アイドルを起用する。					
・インターネットによる意見の書き込み。（国勢調査のような形式でID・パスワードで入力できるような）					
・最後のシール張りは良い取組み。SNSからの投稿でも良ければ”千葉市民参加条例目安箱”等のハッシュタグをつけて市民に意見を送ってもらうと良いかもしれない。そうすれば、市役所としてもこの取組みに関する市の意見を一元的に集約できるし、発信する市民も他にどんな意見があるか見ることができる。					
・様々なチャンネルを活用する。まずはお金がかかる方法でできることをやっていく。					
・私たち皆千葉市民というプライドを持って、少しのおせっかいを心がけたいと思う。					
7 今後、条例の制定に向けた次の工程で参加してみたいものがありますか。(いくつでも)					
ア ワークショップ	1	4	2	1	8
イ プロジェクトチーム	1	3	2	1	7
ウ シンポジウム	1	2	4	1	8
エ 意見交換会	1	2	2	1	6
オ その他					
9 その他、お気づきの点があれば記入してください。					
・交通費が出ないと参加は難しい。参加者数が回を追うほど少なくなっているので、大ワークショップの100名という数はかなり集員が難しい。複数回行うのであれば、せめてPTでご一考願う。					
・これはきっかけ作りだと思う。ここで気づいた事をどれだけ地域でアウトプットできるかだと思う。そのフォローがないと種をまいても芽は出ないと感じる。					
・少人数でも色々な意見、考え方を持った人がいることにあらためて気づいた。					
・大学の先生の意見、コメントを伺えるのも良かった。資料（まとめ資料）も見やすかった。					
・テーマの選択を多くすること。					
・コーヒーみたいなのが欲しい。					
・嫌な顔せず息子の参加を認めてもらい、ありがたい。					